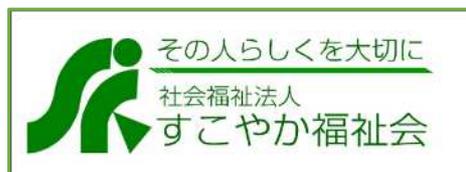


すこやか福祉会 2023年度事業報告

2024年6月21日

社会福祉法人すこやか福祉会評議員会



南葛西2丁目での地域活動 <小規模多機能サービス葛西みなみ 2023年5月17日>

1. 法人概要

■法人設立の目的・趣旨・経営方針

社会福祉法人すこやか福祉会の設立は、四ツ木診療所（医療法人健和会）の職員保育所として出発した無認可保育所「竹の子保育所」と同じく無認可保育所の「東金町保育園」が一緒になって認可保育園開設にむけて取り組み、「産休明けから預かる保育園を」と願う若い親たちと働きつづけることの大切さを感じ取っていた地域住民の方々の協力で葛飾区東金町に開設した「こぼとの森保育園」が原点です。

1998年（平成10年）2月に社会福祉法人の認可を得て今年で25年を迎え、今年度東京さくら福祉会を吸収合併したことにより運営する事業所数は2024年3月末現在で51ヶ所（分室・サテライト含む）となりました。

法人設立から今日に至るまで、私たちは一貫して「安心して住みなれた地域に住み続けられること」をめざして、東都保健医療福祉協議会を構成する法人の医療法人（健和会、南葛勤医協、アカシア会）や学校法

人（東都医療福祉学院）、介護事業を担う法人（福祉協同サービス）、特定非営利活動法人（たんぼぼ会、三郷おあしす会）やまた東京勤医会などの協議会以外の医療法人や社会福祉法人との連携を強め、医療と福祉のネットワークづくりに努力してきました。また、社会福祉法人のもつ高い公共性から社会貢献をめざし、子どもからお年よりまで病気であっても障がいを持っていても、安心してすこやかな生活をおくることができる福祉サービスを提供できるよう事業活動を展開してきました。

「法人の基本理念」に沿って、これからも福祉サービスを必要とする人々が、社会、経済、文化その他のあらゆる活動に参加する機会を得ることができるよう、総合的で質のよいサービスの提供をめざします。

すこやか福祉会の理念

1. 私たちは、命と人権をなによりも大切にします。福祉・介護サービスの提供にあたって、自立支援を重視し、安全に努め、その人らしく生きていくことを支援します。
2. 私たちは、国内外の福祉・介護サービスの実践と研究の成果に学び、サービス内容の改善充実に努めるとともに、病気や障害をもつ人々の生き方に共感し、ともに学び成長する職員の育成に努めます。
3. 私たちは、公共性の高い非営利の事業体として、事業内容の透明性を高め、情報の公開と共有を基礎に、民主的な運営と健全な経営に努めます。また、職員がやり甲斐と生きがいをもって生き生きと働きつづけられる職場づくりをめざします。
4. 私たちは、保健・医療・福祉の充実と地域に根ざしたネットワークづくりに努めるとともに、地域住民と交流を深め、理解と参加・協力を得るよう努めます。また、人間が大事にされ、安心して暮らし続けられる地域づくりに貢献していきます。
5. 私たちは、地域の子どもの成長発達を守り、保護者と共同で、ひとり一人を大切にその子らしく生きる力を育むことを支援します。



すこやか福祉会
イメージキャラクター
すこふくちゃん

■法人設立	1998年（平成10年）2月27日
■本部所在地	東京都葛飾区新宿三丁目4番10号
■本部事務局	東京都足立区千住曙町4-16
■実施事業	第一種社会福祉事業 特別養護老人ホーム、都市型軽費老人ホーム 第二種社会福祉事業 保育所、放課後児童健全育成事業 一時預かり事業、通所介護 認知症対応型共同生活介護、訪問介護 障害者福祉サービス事業、移動支援事業 短期入所、小規模多機能型居宅介護 居宅介護支援、グループリビング 地域包括支援センター、介護タクシー
	公益事業

2. 事業概要

- 事業地域 3都県（7区3市）
東京都（葛飾区・足立区・墨田区・港区・江戸川区・江東区・世田谷区）
埼玉県（三郷市・八潮市）
千葉県（流山市）
- 事業規模 年間事業収入 約34億8200万円（2023年度）
- 事業所数 51事業所（2024年3月31日時点）*地域包括支援センター分室・訪問介護サテライト事業所含む
特別養護老人ホーム1、都市型軽費老人ホーム1
認可保育所3、学童保育クラブ5
通所介護事業所7、グループホーム8、訪問介護事業所14、短期入所（特養併設）
認知症デイ2、小規模多機能4
居宅介護支援事業所3、地域包括支援センター2、グループリビング1
介護タクシー（訪問介護事業所併設）

■2023 年度開設事業所（7 事業所）

○グループホームさくらの家（定員 18 名）

2023 年 11 月 1 日開設

東京さくら福祉会と合併し新規開設
※東京都世田谷区桜丘 4-7-17

○デイサービスセンターさくら草（定員 28 名）

2023 年 11 月 1 日開設

東京さくら福祉会と合併し新規開設
※東京都世田谷区桜丘 4-7-17

○ヘルパーステーションさくら（訪問介護）

2023 年 11 月 1 日開設

東京さくら福祉会と合併し新規開設
※東京都世田谷区桜丘 4-7-17

○在宅支援相談室桜丘（居宅介護支援）

2023 年 11 月 1 日開設

東京さくら福祉会と合併し新規開設
※東京都世田谷区桜丘 4-7-17

○小規模多機能サービスひまわりの家（定員 19 名）

2023 年 11 月 1 日開設

東京さくら福祉会と合併し新規開設
※千葉県流山市三輪野山 1-987

○ヘルパーステーションきずな（訪問介護・介護タクシー）

2023 年 11 月 1 日開設

東京さくら福祉会と合併し新規開設
※千葉県流山市江戸川台西 2-164-101

○カナリア学童保育クラブ

2024 年 2 月 1 日開設

東金町地区学童待機児童大幅増に対応
※東京都葛飾区金町 6-4-4 クライスビル 2 階

■2023 年度閉鎖事業所（なし）

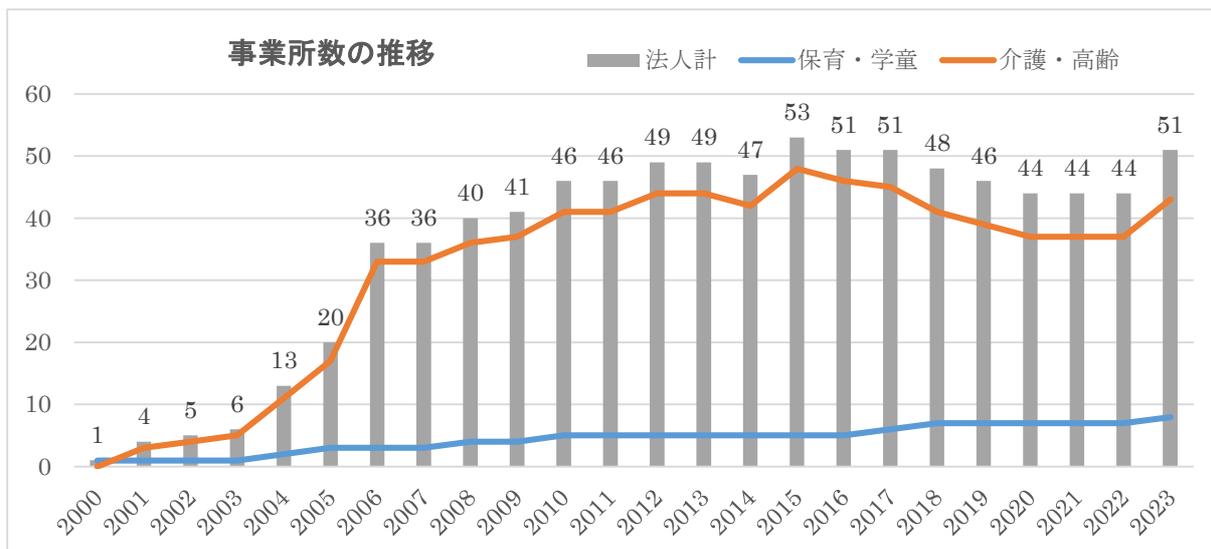
■2023 年度事業所合同・名称変更事業所（1 事業所）

○あおと介護保険相談室 ⇒ ケアサポートかつしか（居宅介護支援）

医療法人健和会四ツ木診療所居宅介護支援事業所と事業所合同（すこやか福祉会で事業継続）

2024 年 2 月 1 日移転・合同・名称変更 ※東京都葛飾区

■事業所数の推移（各年度末時点）



■職員数 697.5 名（2023 年度平均）

年度末時点	2023 年度	2022 年度	前年差	前年比	2021 年度	2020 年度	2019 年度	2018 年度
職員数合計	745.0	666.0	+79.0	111.9%	676.0	696.0	718.0	746.0
（常勤）	262.0	232.0	+30.0	112.9%	246.0	252.0	265.0	264.0
（非常勤）	483.0	434.0	+49.0	111.3%	430.0	444.0	453.0	482.0
常勤換算	535.4	474.9	+60.5	112.7%	480.3	496.3	522.8	529.3
離職率	10.2%	11.7%	▲1.5%	87.2%	9.8%	13.9%	14.8%	14.5%
離職率：介	8.0%	12.1%	▲4.1%	66.1%	9.3%	13.2%	14.3%	14.3%
離職率：保	22.0%	9.9%	+12.1%	222.2%	12.2%	16.7%	16.9%	17.3%

■職員数の推移（各年度末時点の職員総数）



■採用率・離職率の推移



3. 2023年度の運営概要

■法人役員（2024年3月31日現在）

- 理事 11名（定数8～15名）
- 理事長 藤井 博之（2021年6月28日就任、第5代理事長）
 - 常務理事 菊地 雅彦（業務執行理事）
 - 畑中 大吾（業務執行理事）
 - 理事 阿部 孝史：医療法人介護部長
 - 新井 敦子：元特養・軽費老人ホーム施設長
 - 伊江 さおり：医療法人介護副部長
 - 小笠原 光雄：健康友の会事務局長
 - 落合 直人：特別養護老人ホーム施設長
 - 園田 久子：医師、医療法人理事
 - 中山 美千代：特別養護老人ホーム施設長
 - 松岡 愛子：保育事業部長
- 監事 2名（定数2～3名）
- 田中 衆：病院事務次長
 - 三井 亨：社会福祉法人常務理事

■評議員（2024年3月31日現在）

- 評議員 13名（定数9～16名）
- 伊藤 俊夫：すこやか福祉会を支援する会会長
 - 大越 香葉：東京民医連副事務局長
 - 北原 恵美子：元社会福祉法人常務理事
 - 公文 共宣：元NPO法人事務局長

齊藤 加代 : 社会福祉法人常務理事
 佐々木 史子 : 社会福祉法人理事長
 佐藤 哲 : 一般社団法人理事
 多田 誠一 : 社会福祉法人理事長
 対馬 眞代 : 保育園・学童保育保護者OB
 野口 修二 : 生活協同組合専務理事
 橋本 宏子 : 元大学教授
 原 玲子 : 健康友の会副会長
 堀口 千恵子 : 元社会福祉法人副理事長、元保育園園長

■評議員会 (2023年4月1日～2024年3月31日) 3回開催 (定時1回、臨時2回)

	開催日	会場	評議員		決議事項
			出席	欠席	
定時	6月23日	曙共同会館	7	2	2022年度事業報告、2022年度計算書類、資産登記変更、定款一部変更、任期満了に伴う理事選任、任期満了に伴う監事選任、10月合併に伴う理事選任、10月合併に伴う監事選任
臨時	7月14日		決議の省略		法人合併期日変更、法人合併期日変更に伴う合併基本合意書等、合併期日変更に伴う理事選任、合併期日変更に伴う監事選任
臨時	3月29日	曙共同会館	13	0	2023年度補正予算、2024年度事業計画、2024年度第1次事業予算

■理事会 (2023年4月1日～2024年3月31日) 10回開催 (定時6回、臨時4回)

	開催日	会場	出席		欠席		決議事項
			理事	監事	理事	監事	
定時	5月12日	曙共同会館	7	2	0	0	設備投資・備品購入、管理者人事、2022年度保育園施設設備積立金金額修正、東京さくら福祉会との法人合併に伴う定款改定、GH福さん家の土地建物
臨時	6月2日	曙共同会館	7	1	0	1	2022年度事業活動報告、2022年度計算書類、資産登記変更、2023年度第2次予算、会計監査人契約、任期満了に伴う次期役員候補者推薦、合併後の役員・評議員候補者推薦、定時評議員会開催、夏期一時金支給額、設備投資・備品購入、管理者人事、GH福さん家の土地建物、保育事業部新規プロジェクト委員会新設、金町地区学童保育クラブ新設、就学資金貸付申込及び研修受講資金貸付申込での連帯保証
臨時	6月23日	曙共同会館	6	2	1	0	理事長・業務執行理事選任
定時	7月7日	曙共同会館	6	2	1	0	管理者人事、GH福さん家の土地建物、金町地区学童保育クラブ新設、GHかなまちでのハラスメント、常設ハラスメント委員会設置、東京さくら福祉会との法人合併期日変更、臨時評議員会開催

定時	9月1日	曙共同会館	6	2	1	0	エリア再編、管理者人事、金町地区学童保育クラブ新設、松戸市松戸2210番地土地売却、協立医師協同組金融互助会積立、緊急経営対策、最賃改定に伴う給与改定、東社協介護福祉士実務者研修受講資金貸付申込での連帯保証
臨時	10月25日		決議の省略				カナリア学童保育クラブ新設工事施工業者選定
定時	11月10日	曙共同会館	10	2	1	0	管理者人事、設備投資・備品購入、評議員選任解任委員の解任・選任、あおと介護保険相談室移転及び事業所合同、緊急経営対策、年末一時金回答支給額、年末一時金資金金融機関借入、運転資金金融機関借入、特養多床室個室化工事
定時	1月5日	曙共同会館	10	1	1	1	管理者人事、設備投資・備品購入、あおと介護保険相談室移転後の施設名称、保育事業部職員借り上げ住宅規程改定、八潮かえで保育園処遇改善加算停止に伴う減収経緯報告、2024年度予算編成方針案、パレスチナ自治区ガザへの非人道的攻撃に抗議し、即時停戦を求める決議
臨時	1月31日		決議の省略				移転・名称変更による管理者人事
定時	3月1日	曙共同会館	10	2	1	0	管理者人事、設備投資・備品購入、2023年度補正予算、保育園施設設備積立金・人件費積立金、2024年度事業計画、2024年度第1次予算、利用者負担金回収不能損失処理、特養運営規程改定、臨時評議員会開催

■会計監査人<協働公認会計士共同事務所>往査の状況 (2023年4月1日～2024年3月31日)

別紙会計監査人報告書参照

■監事監査 (2023年4月1日～2024年3月31日) 1回開催 (監事全員出席)

5月25日(木) 10:00～12:00、千住曙共同会館3階面談室

■苦情対応第三者委員会 (2023年4月1日～2024年3月31日) 1回開催 (第三者委員4名全員出席)

10月13日(金) 15:00～17:00

議題 転落事故をきっかけに利用者家族からのカスハラに発展した事例
医療連携での課題 (個人情報保護の壁)
学童保育クラブでの離設事故

■評議員選任・解任委員会 (2023年4月1日～2024年3月31日) 1回開催

10月18日(水) 15:10～15:30、千住曙共同会館3階事務室+オンライン (ZOOM)

4. 2023年度事業活動のまとめ

はじめに

2度にわたる世界大戦の教訓から戦争を繰り返さないと決めた国連憲章を踏みにじり、決して越えてはならないはずの人道上の危機が進行しています。ロシアのウクライナ侵攻 (2022年2月24日～) は終わりが見通せず、戦争の惨禍は拡大しています。さらに、イスラエルがガザ地区への凄惨極まる軍事攻撃を続けています (2023年10月7日～)。ウクライナ侵攻とガザ危機という問題に対し、アメリカはロシアによるウクライナ侵略を国際法違反と非難しながら、イスラエルの国際法違反の行為を容認、「自衛権行使」の名のもとで擁護しています。また、ロシアは自国のウクライナ侵攻を正当化しながら、イスラエルの行動を国際法違反と非難しています。このようなアメリカとロシアの自国に都合の良いダブルスタンダードで対応することは許されません。多数の民間人を犠牲にする戦争はあってはならないと多くの市民がウクライナ侵攻、ガザ攻撃の即時停止を求めて声を上げています。どんな国であっても、自国の影響力拡大のため

に、軍事的、経済的、政治的に強大な力にものを言わせて他国に介入し、他国の主権を侵害・支配するという「覇権主義」は許されず、国連憲章と国際法を守る一点で、対話を通じて争いを解決することこそ平和を実現する道です。

現在、岸田政権が強力

に推進しているのが「医療DX（デジタルトランスフォーメーション）」（社会保障DX）であり、その柱とされているのが「全国医療情報プラットフォーム」の構築です。患者・利用者の医療・介護情報を収集して医療機関、介護事業所での共有化をはかる仕組みであり、医療・介護の質の向上や連携の強化に資するとともに、患者・利用者が自らの医療・介護情報にアクセスすることを可能にするものです。しかし、政府が運用するマイナポータルとマイナンバーカードを活用することが前提とされており、本来任意とされているマイナンバーカードの取得を強制するために、マイナンバーカードとの一元化による健康保険証の廃止がねらわれていることは重大です。受療権やフリーアクセスに対する許しがたい侵害であるとともに、カードの保管、更新手続きなどに対応せざるを得ない介護施設・事業所に、過大な負担とリスクを強いるものです。当法人として施設での対応に疑問や混乱を招く事態があることをテレビや新聞などの様々なマスコミ媒体で批判してきました。岸田政権が推進しているDX政策の背景には、個人情報や企業活動に活用したい財界の強い意向があります。本来、DXは日常生活上の利便性の向上や健康増進、社会参加や民主主義の推進などに資すると考えられますが、こうした目的を達成する「社会のためのDX」ではなく、人権を軽視し、利益の確保を目的とする「企業のためのDX」として展開されている点に、日本のDX政策の根本的な問題・矛盾があります。

日本の総人口は2008年の1億2808万人をピークに減少に転じています。出生率（合計特殊出生率）は1970年代半ばから鈍化し始め、その後年々低下し、2022年は1.26（人口維持可能な出生率は2.07）、出生数77万人といずれも統計開始以来最低の水準となりました。2023年4月、国立社会保障・人口問題研究所が公表した新たな将来人口推計では、総人口は2056年に1億人を切り、2070年には現状から3割減の8700万人、出生数は50万人まで落ち込み、高齢化率は4割弱に達すると予測されています。総人口の減少が回避できないなか、人口増を前提にした高度経済成長時代の「成功体験」に基づく従来型の経済成長政策から早期に脱却しなければなりません。医療・福祉ニーズがいつそう高まっていくなか、ケアを中軸に据えた産業構造・就業構造への転換を含め、人口減を踏まえた新たな社会ビジョンをつくりあげ、それに基づいて政治・経済、社会のあり方を抜本的に見直していくことが求められます。

私たちは、人口規模の縮小が急速な少子化と高齢化が進展するなかで、政治・経済、社会のあり方を提言し発信し続け、一人ひとりの人権が守られ、住み慣れた地域、本人が望む場所で豊かに暮らせる社会をつくっていくことが大きな課題になります。また、そのような状況下で、保育・介護などの福祉事業を進めていくことになり、さまざまな運動を進めていくことと並行して、私たちの事業・活動を守り、発展をめざしていくことが求められます。

①「全職員参加の経営」の実践で安定した経営体質づくり

○事業計画に連動した収入・支出予算管理

2023年度は、第2次5カ年計画（AreaMovement2025：2021～2025年度）の3年目にあたり、東京さくら福祉会との法人合併（11月）、カナリア学童保育クラブ開設（2024年2月）、四ツ木診療所居宅会議支援事業所との事業所合同によるケアサポートかつしか移転開設（2024年2月）など、大きく前進することができました。また、法人合併に伴うエリア再編も行い、新たなスタートを切ることができました。しかし、新型コロナウイルス感染症が2023年5月に感染症法5類へ移行したにもかかわらずその後も感染が頻繁に発生し、前年度同様にコロナ禍による様々な困難に直面しました。さらに慢性的人材不足や物価高騰などの影響もあり、経営的には厳しい年間となりました。サービス事業別



では、保育事業が前年差+1700万円と好調を維持しましたが、訪問介護が▲2900万円、小多機が▲2600万円と大きな赤字となりました。予算乖離の大きい通所介護・訪問介護・小多機の事業所で事業所単位の経営検討会議の開催やエリア単位・地域単位での検討を重ねましたが、年度内に大きな結果を生み出すことができませんでした。

2024年度は介護報酬改定の年であり、マイナス改定となった訪問介護は動向を注視し対策を検討する必要がありますが、他のサービス事業での加算算定などの増収策を具体化していかなければなりません。

○afterコロナ期での「新たな」ノーマル（基準）への対応

新型コロナウイルス感染症は2023年5月に感染症法5類へ移行しましたが、その後も感染が頻繁に発生しました。重症化率の低下にもかかわらず、爆発的な感染拡大によるクラスターが発生し、稼働縮小が引き続き今年もあり、特養葛飾やすらぎの郷では6月に14名、10月2名、2024年3月33名と年間を通じて感染が続き、その他にも、インフルエンザ（12月6名）や感染性胃腸炎（2024年1月58名）、レジオネラ菌（9月1名）があり、なかでも9月に発生したレジオネラ菌検出では保健所の命令で2階浴槽の使用が中止になる事態となりました。2024年2月～3月にかけて東京都「高齢者施設等の感染症対策設備整備推進事業」を活用し、多床室の個室化工事を実施し、今後、感染症の拡大防止の検証が待たれるところです。また、保育事業部では、コロナを意識しつつも保育内容や行事のあり方の見直しを進め、コロナ禍前には及ばないものの保護者参加の行事等に取り組むことができました。

○不採算事業所の経営対策、業務効率化等の改善課題への迅速な対応

今年度は廃止・休止となった事業所はありませんでしたが、いくつかの事業所で経営対策が必要となり、個別の経営対策会議の開催やエリアや地域、サービス別での経営検討を行うなど取り組んできました。なかでも、居宅介護支援事業所の再編については協議会レベルで検討を重ね、今年度は2024年2月に健和会四ツ木診療所居宅介護支援事業所とあおと介護保険相談室が合流し、あらたにすこやか福祉会の事業所「ケアサポートかつしか」として再スタートをすることができました。しかし、他のサービス事業所でも経営対策に早急に着手する必要があるところがあり、2024年度の重要課題となります。

保育分野では、0歳児や幼稚園転園による3歳児の定員割れ、人材紹介会社を使っての人材確保など、保育事業部での経営対策の必要性が浮き彫りになっているのですが、具体的な対策に着手できていない状況です。逆に学童保育は定員を超える応募状況で待機児問題が切実な課題となっています。金町地域では区から新設学童の開設を求められ、2024年2月にカナリア学童保育クラブを開設することができました。

費用面では、食材費、ガソリン代、光熱費などの物価高騰という社会的要因により、具体的な対策が必要です。個々の事業所で事業費・事務費の支出の見直しなど対策を進めてきました。

○老朽化した施設の修繕とよりよい施設への改修

2022年度に2001年開設の特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷の防水改修、外壁、内装工事を行いました。その他の施設でも建設後10数年～20数年経過しているところがあり、計画的な改修工事が求められる状況です。11月法人合併で新しい事業所となった小多機ひまわりの家の老朽化が進んでいるため、あらたに建て替えプロジェクトを設置し、建て替えに向けて進めていくことになりました。また、開設26年目を迎えるこばとの森保育園の大規模修繕も次年度の重点課題です。

②第2次5カ年計画（AreaMovement2025：2021～2025年度）の重点課題への果敢な取り組み

○東京さくら福祉会との法人合併

社会福祉法人東京さくら福祉会と2023年11月に合併することができました。合併は、すこやか福祉会が東京さくら福祉会を吸収する吸収合併の形式をとることになり、合併に向けて、両理事長懇談会、合併プロジェクト事務局会議、労務総務プロジェクト会議、経理財務プロジェクト会議、介護現場プロジェクト会議が動きました。賃金・労働条件の点で、細かい部分での確認ができなかったこともあり、合併後に問題を積み残すなど課題が残りましたが、合併と同時に事業エリアを再編し、東部（葛飾、足立、墨田）、南部（江戸川、江東、港、世田谷）、埼玉（三郷、八潮、流山）の3つのエリアで事業や諸活動を推進する形に変更しました。



○特養ホーム小鳩園支援の継続

特養増床・移転新築に向けて動き出した社会福祉法人小鳩会との連携が深まり、定期協議や運営面での提案、幹部の出向支援を引き続き行っています。2024年8月に増床移転新築の予定のため、具体的な増床移転準備や日常運営支援の強化が課題です。

○待機児問題が続く学童保育クラブの新たな開設をめざす

金町地域では再開発によるマンションの林立等で学童保育クラブへの入所申請が増加している状況が続き、区からの要請を受けてカナリア学童保育クラブを2024年2月に開設することができました。しかし、1・2年生で定員を超えてしまうなど待機児の解消には至っていません。引き続き地域のニーズに応えた運動や事業展開が求められています。

○多職種協働や地域連携強化を目的に、各エリアに「運営協議会」の設置

第2次5カ年計画で各エリアに「運営協議会」の設置を掲げています。南部エリアでは「葛西みなみ医療福祉共同ビル連絡会」や「すこやかの家みたて連絡会」が開催され、地域情報の共有や合同避難訓練など定着するようになりました。また、葛飾区などケアマネ事業所の合同を契機に新たに動き出しているところもありますが、一方では東都協議会の地区協議会が開店休業となっているエリアも散見され、まずは行政区の医療機関を中心とした地区協議会の再建が必要です。

また、地域の小中学校の要請に応えた車いすの出前講座や夏休み高校生職場体験を行うなど地域とのつながりを重視した活動を行うことができました。

③法人運営の新たな段階をめざすための幹部配置と事業活動を担う人材の確保と育成

○幹部再配置で、第2次5カ年計画を担う世代への交代

年度内での交代は進みませんでした。介護幹部や事務幹部については、東京さくら福祉会との法人合併以降に新たな計画を立て、準備を進めています。2024年度から2026年度にかけて進めていく予定です。また、保育事業部も後任問題があり、中長期的な人事政策の確立と人事交流を進めていく必要があります。特養建設が決まった小鳩会への出向人事は精力的に実施してきました。

○事業の成否がかかる人材の確保と育成

人材確保は引き続き厳しい1年でした。保育事業部では採用委員会を中心に職員確保の取り組みを進めていますが、依然人材紹介会社経由での中途採用が中心となっていて、採用委員会の取り組み強化が求められます。また、2022年12月に「人財採用・教育・広報室」が開設され介護事業では派遣職員0名を目標に取り組みんでいましたが、グループホームでの特に夜勤職員の確保に苦戦し、派遣に頼らざるを得ない状況が続いています。

○法人理念等の学習での経営理念の浸透や「めざす職員像」の構築

6年前の2018年に法人創立20周年を迎えたときに法人理念アンケートに取り組みました。その後、民医連綱領や時々の情勢学習を進めてきましたが、コロナ禍や経営問題での目先の取り組みに終始し、「私たちがなぜ保育や介護福祉の事業に取り組んでいるのか」という経営理念の浸透を継続的に実践することができませんでした。あらためて課題設定し、全体学習や自主学習会などを企画し、「めざす職員像」の構築に向けて取り組んでいかなければなりません。

④社会福祉法人としての役割実践と平和や社会保障拡充、環境問題等の取り組み

○コロナ禍で明らかになった「いのちと人権」の危機からの転換をめざすあらゆる活動

法人独自減免制度については、コロナ禍で引き続き特徴的な取り組みとなりましたが、制度の活用の中ではまだまだ不十分な部分があり、今後の課題となりました。今後の活動に大いに期待するところですが、福祉（介護・保育）相談に結び付けることができるような職員の「目とかまえ」が重要な課題です。

○介護ウェーブなど社会の「未来」を創る活動の一層の前進

9月から始まった介護ウェーブ2023請願署名の取り組みは、この間の介護をめぐる改悪に向けた動きの中、介護報酬プラス改定に向けて大きく進めてきました。多くの事業所で積極的に取り組み、協議会での署名の到達が12,000筆を超え、過去最高の取り組みとなりました。

○地域公益活動の実践

子育て相談支援・地域交流の場の提供、地域行事への参加、施設の一部や園庭の解放、認知症や介護予防講座の実施、生活困窮者への支援など多くの目標を設定しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響でそのほとんどが中止となりましたが、2023年5月に感染症法5類へ移行した以降は徐々に取り組みが広がってきました。

○支援募金活動

今年度はガザへの緊急人道支援募金（19事業所93,667円）や能登半島地震義援募金（28事業所278,277円）に取り組みました。

⑤様々な関連法規・対策課題を学び、良質かつ適切な福祉サービスの提供と実践課題

○関連法令や社会的ルールの遵守などコンプライアンス教育の徹底と体制の構築、マニュアルの策定

法令遵守委員会を毎月開催し、日常的に整備を進めることができました。各サービス事業のコンプライアンス・サービス向上委員会も定期開催しましたが、エリアとのかかわりでのラインの整理・整備が課題となっている現状があり、改善課題です。

○日常的なリスクマネジメントと重大事故が起こった際の対応ルールの確立

福祉サービスでのリスクマネジメントは、利用者満足度の向上や利用者の安心と安全を守る適切なサービス提供を実現することが目的です。万一の事故の際もすばやく適切な要因分析や手順改善等の対応ができるリスクマネージャー配置に向けた第1歩となりましたが、リスクマネージャーの配置までには至りませんでした。

⑥経営戦略・人材戦略の一環としての広報PR活動、ブランド戦略の具体化

○法人ブランドの認知を広げるために法人事業計画に沿ったブランディング実践

社会福祉法人といえども事業を行う上でブランディングは重要なコンセプトです。強化する必要性をまず職員一人ひとりが認識することが求められています。その中で、法人・事業所アピール、採用強化のための広報物、利用者増のための営業ツールの作成など、人財採用・教育・広報室が中心となって取り組むことができました。

○様々な宣伝媒体の活用

広報紙「すみなれたまちで」の定期発行を継続して行い、送付先の拡大等によるアピール活動の強化を進めることが継続してできました。しかし、さらなる活用をめざして、他法人の取り組み・活用方法などを参考に再検討していく必要があります。

事業所での日々の取り組みを情報収集し、SNSでの定期発信を行ってきました。新たに採用専用ホームページを作成し、法人ホームページと合わせ定期的な更新と発信を行なうことや広報委員会の強化が課題です。

⑦その他の特徴的な事項

○子どもケア創造チーム

葛飾区補助金誤支給返還問題について検討する中で、保育や学童保育の未来構想を含めて検討・企画する後継委員会として「子どもケア創造チーム」を立ち上げた。主な役割として、①大きな夢・希望を持ち、それに向けた具体的ケアを実践する、②情勢の変化や子ども政策の調査と学習を系統的に取り組む、③保育現場の「働き方改革」に系統的に取り組むこととし、メンバー構成や新しい委員会の進め方等を検討することとしてスタートしました。

○ハラスメント事例報告とその対応について

いくつかの事業所で職員間のトラブルやハラスメント事例があり、ハラスメント委員会が立ち上がるなど対応してきました。利用者・保護者対応でのカスハラ事例だけでなく、同じ職場で働く者同士で、職務上の地位や人間関係などで職場内の優位性を背景に業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与えたり、職場環境を悪化させる行為（いわゆるパワハラ）が確認されました。そのようなことは働く職員の心の健康悪化はもちろん、仕事への意欲の低下や生産性の低下、業績悪化につながります。法人としてハラスメント撲滅に向けて引き続き活動を進めていく必要があります。

○アカシア会からの緊急業務支援要請への対応について

9月に医療法人アカシア会から、当該法人の介護事務幹部の退職等に伴い、緊急業務支援と幹部人事支援の要請がありました。日常的な業務支援については先行して行っていますが、幹部人事支援については検討を進めてきましたが支援に至っていない現状です。次年度に向けて検討します。

5. 2023年度研究発表・研修講演活動及び取材・記事掲載

①研究発表・研修講演活動

○東葛健康友の会健康班会：4月9日

「高齢者介護について」

HSきずな

古谷 徹

○葛飾区社会福祉法人ネットワーク定期総会：5月11日

「新宿地域会議について」

統括マネジャー

天野 義久

○東京民医連看護介護活動研究交流集会：6月25日

「インシデントレポートからのスキルアップ」

FCみさと北

児玉 葉子

○長野大学社会福祉学部介護福祉科講義：6月21日

「身支度に関するところとからだのしくみ」

足墨マネジャー

吉井 暁

○長野大学社会福祉学部介護福祉科講義：6月28日

「移動・移乗に関するところとからだのしくみ」

小鳩園出向

江川 慎二

○長野大学社会福祉学部介護福祉科講義：7月5日

「食事に関するところとからだのしくみ」

湾岸マネジャー

中野 一仁

○長野大学社会福祉学部介護福祉科講義：7月12日

「入浴・清潔に関するところとからだのしくみ」

葛飾やすらぎの郷

落合 直人

○長野大学社会福祉学部介護福祉科講義：7月19日

「排泄に関するところとからだのしくみ」

埼玉マネジャー

猪瀬 茜

○第55回全国保育団体合同研究集会：7月30日～8月6日

2歳児の保育A「友だちとの関わりな中で育つ心」

八潮かえで保育園

小島 恵里奈

子どもの生活と異年齢保育A「子どもの生活と異年齢保育」

八潮かえで保育園

松川 芽衣

美術・造形滑動『表現することを楽しむ子どもたち』

八潮かえで保育園

吉澤 木綿子

「平和の取り組み」

金町学童保育クラブ

川口 大樹

近藤 永都子

○葛飾区社会福祉法人地域協議会：9月24日

「地域における公益活動について」

統括マネジャー

天野 義久

- 第10回全日本民医連認知症懇話会 in 奈良：9月30日
「自分らしく暮らせるように」 F Cたかの 船木 幸子
- 全日本民連学術運動交流集会 in 金沢：10月13日
「葛飾区社会福祉法人ネットワークが中心となった地域のネットワークの構築」 統括マネジャー 天野 義久
「新卒介護職15名採用の取り組み」 事務局次長 中村 寛史
「エリアマネジャーとコンプライアンスマネジャー兼務の挑戦」 足墨マネジャー 吉井 暁
「経営改善に向き合って、職場全体で取り組んだ」 デイみたて 湯田 達也
「葛飾区社福法人ネットワークが中心となった地域のネットワークの構築」 葛飾やすらぎの郷 松井 さくら
「介護保険に適用される公費学習」 新宿デイ 伊東 泰視
「転倒防止に繋がった取り組み」 GHみたて 田中 俊祐
- 第20回東都協議会介護活動交流集会：11月11日
「やすらぎでの生活K氏の安心で安全な生活を目指して」 葛飾やすらぎの郷 古宮 英朗
「GHの入居者と家族のかかわり」 GH千住大川 佐藤 美佐子
「画伯の創作活動 in GH」 GHかなまち 福田 久美子
「想いをつなぐ心の架け橋」 F C大島 山田 悦子
「新人奮闘記～私が初めて認知症利用者と出会った日～」 小多機馬渡さん家 竹村 祐樹
「強すぎる自尊心」 F Cみさと北 児玉 葉子
- 東京民医連訪問介護内部監査交流会：11月14日指定報告 埼葛マネジャー 猪瀬 茜
- 三郷市在宅医療介護連携推進協議会研修部会：11月25日
「身寄りのない方のターミナルケア」 F Cたかの 山本 洋子
- 21・老福連職員研究交流集会 in 福島：12月3日
「多職種とのチームケア」 葛飾やすらぎの郷 昼間 武史
- 葛飾区南葛飾高等学校「認知症の理解」講師：12月7日 統括マネジャー 天野 義久
- 葛飾区一之台中学校「認知症サポーター講座」講師：12月9日 統括マネジャー 天野 義久
- 認知症ケア会議：1月18日
「独居生活を支える生活アセスメント」 小多機馬渡さん家 佐藤 淑子
- 新日本婦人の会流山支部班会：1月24日
「介護保険について」 小多機ひまわりの家 清水 竜太
- みさと北地区医療福祉活動交流集会：2月3日
「強すぎる自尊心」 F Cみさと北 島根 くみ子
「采女の里での取り組みについて」 デイ采女の里 松村 佐知子
- 第19回東部東葛ブロック医療福祉活動交流集会：2月17日
「身体拘束～また歩けるようになるために～」 葛飾やすらぎの郷 熊坂 拓哉
- 協議会第7回看護活動交流集会：3月2日
「認知症になっても地域で暮らす」 地域包括青戸 塚田 望
- 葛飾区青戸中学校「認知症サポーター講座」講師：3月11日 統括マネジャー 天野 義久
- ②取材・記事掲載**
- みんないれんTOKYO「心の中の目標書き留める」 湾岸マネジャー 中野 一仁
- 流山市「もっと安心ずっと流山」4月号 「小多機特集」 小多機ひまわりの家 清水 竜太
- けんこう/江東区健康友の会発行：2023年4月号、9月号、2024年3月号
リレー健康講座 F C大島 山田 悦子
- 朝日新聞「マイナ保険証 申請に懸念」：5月28日 統括マネジャー 天野 義久
- 流山市おうち療養情報誌「在宅を支える事業所紹介」5月号 HSきずな 原田 誠
- 協議会だより5月号「おすすめの一冊」：不屈の精神で栄養学、女性の教育を追求し続けた人 F Cたかの 山本 洋子

「協議会導入期研修」：「協議会新卒介護職員合同研修」を開催

- | | | |
|--|------------------------------|-----------------------------------|
| ○福祉新聞「マイナカード管理できない」：6月13日 | 本部事務局
統括マネジャー
葛飾やすらぎの郷 | 川尻 佳司
天野 義久
落合 直人
長谷川 浩司 |
| ○TBS『サンデーモーニング』：6月25日 | 統括マネジャー | 天野 義久 |
| ○月刊『ゆたかな暮らし』2023年6月号
「中庭にハゼの木芽吹くわが住居（すみか）～ご家族とともに作りあげていく施設として」 | 葛飾やすらぎの郷 | 松井 さくら |
| ○協議会だより6月号「2023年度事業活動方針」：アフターコロナの新しい景色を見るために
「5.3憲法集会東京2万5000人」 | 常務理事
葛飾やすらぎの郷 | 菊地 雅彦
小又 維鎮 |
| ○BS-TBS『報道1930』：7月20日 | 統括マネジャー | 天野 義久 |
| ○月刊『福祉のひろば』2023年7月号「みんなで成し遂げた『最後の晩餐』」 | 葛飾やすらぎの郷 | 昼間 武史 |
| ○診療研究7月号（東京保険医協会）「介護保険をとりまく情勢」 | 葛飾やすらぎの郷 | 小又 維鎮 |
| ○協議会だより7月号「SW部会活動報告会を開催」
「すこやか福祉会全役職者会議に参加して」 | 地域包括青戸
CHかねがふち | 新美 育子
菊池 あゆみ |
| ○テレビ東京『ワールドビジネスサテライト』：8月4日 | GH千住大川
葛飾やすらぎの郷 | 迫田 正美
長谷川 浩司 |
| ○朝日新聞「マイナ 介護現場にマニュアル」：8月24日 | 統括マネジャー | 天野 義久 |
| ○協議会だより8月号「東京民医連看護介護活動交流集会参加しての感想」 | FCみさと北 | 児玉 葉子 |
| ○下町の健康：9月25日
原水禁世界大会「一刻も早く核廃絶を」
「核兵器のない世界に向け行動する」 | 埼玉葛エリア事務局
葛飾やすらぎの郷 | 市村 敬亮
鈴木 聖 |
| ○協議会だより9月号「4年ぶりの葛飾納涼花火大会で大盛り上がり！」 | 葛飾やすらぎの郷 | 高田 剣
長谷川 浩司 |
| 「保育事業部のアフターコロナ」
「おすすめの1冊」：私が受けたココロの授業講演編 | 保育事業部長
GHみたて | 松岡 愛子
田中 俊祐 |
| ○月刊『ゆたかな暮らし』2023年10月号「水道光熱費高騰で危機に直面する特別養護老人ホーム」 | 葛飾やすらぎの郷 | 小又 維鎮 |
| ○医療と福祉10月号「社会福祉法人すこやか福祉会との合併について」 | 常務理事 | 畑中 大吾 |
| ○協議会だより10月号「介護活動交流集会予選会」
「夏のイベント・お祭り外出」
「夏祭り2023」 | FCたかの
GH業平
デイみたて | 奥澤 聡
紙屋 友信
湯田 達也 |
| ○流山市広報誌11月号 介護の魅力発信「小多機紹介」 | 小多機ひまわりの家 | 小林 拓也 |
| ○協議会だより11月号「認知症懇話会に参加して」
「登戸研究所資料館」を訪ねて | FCたかの
埼玉葛エリア事務局 | 船木 幸子
吉澤 聡 |
| ○東京新聞Web版「保険証預かり 施設困惑」：12月14日 | 統括マネジャー
葛飾やすらぎの郷 | 天野 義久
落合 直人 |
| ○東京新聞「保険証預かり 施設困惑」：12月14日 | 統括マネジャー | 天野 義久 |

- 葛飾やすらぎの郷 落合 直人
- WEB 新聞：朝日新聞社シニア事業部：12 月 20 日
「小中高時代での高齢者や介護の接点が介護のしごとへの就職のハードルを低くした」
FCみたて 山崎 加奈
CHかねがふち 菊池 あゆみ
東部マネジャー 中野 一仁
- 協議会だより 12 月号「学運交：記念講演感想」
「すこやか福祉会は東京さくら福祉会と合併しました」
埼葛マネジャー 猪瀬 茜
事務局次長 中村 寛史
常務理事 畑中 大吾
学運交「転倒防止に繋がった取り組み」 GHみたて 田中 俊祐
介護活動交流集会実行委員長としての振り返り
デイみたて 湯田 達也
記念講演を聞いて デイなごみ 小澤 孝博
新人奮闘記 小多機馬渡さん家 竹村 佑樹
20 代の目「頑張れる理由」 野のはな保育園 鈴木 乃羽
- シルバー新報：1 月 1 日
座談会：介護報酬改定前夜「人を幸せにする介護」 理事長 藤井 博之
あおと介護保険相談室 森 幸枝
- しんぶん赤旗「ケアに生きる～一生忘れない感謝」：1 月 26 日
葛飾やすらぎの郷 熊坂 拓哉
- 月間 DAY「全国の魅力的なデイサービス」：1 月号掲載
デイ采女の里
- 下町の健康：1 月 25 日 新年のご挨拶「社会保障財源を獲得する闘いを」
理事長 藤井 博之
- 健康のひろば：1 月 25 日 三郷市予算要望の懇談会 埼葛エリア事務局 吉澤 聡
- 協議会だより 1 月号「役員・管理者合同集会に参加しての感想」
HSきずな 古谷 徹
南部マネジャー 高梨 達矢
- 協議会だより 2 月号 沖縄は今「初めて戦争に深く触れ衝撃的でした」
小多機馬渡さん家 竹村 佑樹
「戦争…止められるのは私たち自身」 金町学童保育クラブ 川口 大樹
「おすすめの 1 冊」マイ仏教 GH福さん家 益子 雄二
- 東京民医連介護職部会第 18 回研修交流会：3 月 16 日
「GH入居者と家族のかかわり」 GH千住大川 佐藤 美佐子
- しんぶん赤旗：3 月 17 日
「訪問介護・基本報酬減の改定と経営的な影響」 埼葛マネジャー 猪瀬 茜
- 健康のひろば第 490 号：3 月 25 日「事業所だより」 デイなごみ 玉城 志奈子
- 港区社会福祉法人連絡会：2024.3 「フードパントリー応援企画」
デイみたて 湯田 達也
- 毎日新聞社「介護のしごと魅力発信事業」 FCみさと 山崎 加奈
- 「明日への看護 N041」2024
「コロナ禍から 5 類移行後の訪問介護事業所の取り組み」 FCみさと 菊地 淳子
- 協議会だより 2 月号 第 14 回事務活動検討交流集会を開催 埼葛エリア事務局 吉澤 聡
「ヤングケアラーってなに？」に参加して 地域包括青戸 新美 育子
20 代の目「利用者さんとのコミュニケーションを大事にして」
葛飾やすらぎの郷 中村 未来

6. 法人の沿革

- 1998年 2月 社会福祉法人すこやか福祉会 法人認可
※初代理事長：内村 逸郎（初代常務理事：深沢 大三）
- 4月 こばとの森保育園（定員 65 名） 開園（葛飾区東水元）
- 1999年 7月 特養ホーム等高齢者施設づくりをすすめる会 発足
※のちの、すこやか福祉会を支援する会
- 2001年 4月 こばとの森保育園 増築（定員 80 名）
特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷 開設（葛飾区新宿）
（定員：入所 80 名、ショートステイ 16 名）
特養併設新宿在宅サービスセンター（定員 20 名） 開設（葛飾区新宿）
- 5月 グループホーム福さん家 開設（墨田区吾妻橋） 定員 9 名
- 2002年 8月 かばらデイサービスセンター 開設（足立区東和） 定員 30 名
※医療福祉複合施設（医科・歯科診療所併設）
- 2003年 3月 ※理事長交代 第2代：増子 忠道（常務理事交代：竹森 チヤ子）
- 5月 在宅サービスセンター葛西 開設（江戸川区南葛西） 定員 15 名
※医療福祉複合施設（医科診療所併設）
- 2004年 1月 あおと福祉の家 開設（葛飾区青戸） ※福祉複合施設
グループホーム青戸（定員 18 名）
デイサービスセンターすこやか（定員 30 名）
ファミリーケアすこやか：訪問介護 3 事業所開設
- 4月 金町学童保育クラブ（定員 57 名） 開設（葛飾区東金町）
- 6月 グループホーム千住大川 開設（足立区千住大川） 定員 18 名
- 1 2月 かなまち福祉の家 開設（葛飾区東金町） ※福祉複合施設
グループホームかなまち（定員 9 名）
デイサービスセンターかなまち（定員 30 名） 2 事業所開設
- 2005年 4月 つばさ学童保育クラブ（定員 30 名） 開設（葛飾区金町）
- 6月 ファミリーケア芝：訪問介護 開設（港区新橋）
- 9月 ケアサポートセンターみたて：居宅介護支援 開設（港区港南）
- 1 1月 グループホームかねがふち（定員 9 名） 開設（墨田区墨田）
※医療福祉複合施設（医科診療所併設）
- 2006年 1月 すこやかの家みたて 開設（港区港南） ※福祉複合施設
グループホームみたて（定員 18 名）
デイサービスセンターみたて（定員 15 名）
高齢者グループリビングみたて：高齢者住宅（8 室）
ファミリーケアみたて：訪問介護 4 事業所開設
ケアサポートセンターみたて：居宅介護支援 移転
- 5月 ※理事長交代 第3代：竹森 チヤ子（常務理事交代：田制 昭平）
- 5月 東京都港区高齢者集合住宅生活援助員業務受託
- 8月 株式会社ファミリーケアから東京都内事業所運営移管により 1 4 事業所開設
千住大川デイサービスセンター（定員 30 名）（足立区千住大川）
デイサービスセンターかねがふち（定員 30 名）（墨田区墨田）
デイサービスセンターなの花（定員 30 名）（江東区大島）
ファミリーケア立石：訪問介護（葛飾区東立石）
ファミリーケア北千住：訪問介護（足立区千住仲町）
ファミリーケア柳原：訪問介護（足立区柳原）
ファミリーケア西新井：訪問介護（足立区西新井栄町）
ファミリーケア綾瀬：訪問介護（足立区東和）

- ファミリーケアすみだ：訪問介護（墨田区墨田）
 ファミリーケア新小岩：訪問介護（江戸川区松島）
 ファミリーケア葛西：訪問介護（江戸川区西葛西）
 ファミリーケア大島：訪問介護（江東区大島）
 ファミリーケア深川：訪問介護（江東区東陽町）
 ファミリーケア訪問入浴：訪問入浴介護（足立区千住大川）
- 1 2月 認知症デイサービスよりみち（定員 11 名） 開設（足立区柳原）
- 2007年
- 1月 広報紙「住みなれたまちで」創刊
 7月 本部事務局移転（足立区千住曙町）
- 2008年
- 3月 こぼとの森保育園 10 周年記念誌「たからもの 子どもたちが豊かに育つために」発行
 4月 地域包括支援センター青戸 開設（葛飾区青戸）※高齢者総合相談センター青戸
 4月 ファミリーケア花千寿：訪問介護 開設（足立区千住大川）
 4月 よりみちの家 開設（足立区柳原） ※福祉複合施設
 小規模多機能サービスよりみちの家（定員 18 名）
 高齢者グループリビングよりみちの家：高齢者住宅（5 室） 2 事業所開設
 認知症デイサービスよりみち 移転（定員 12 名）
 4月 小規模多機能サービス馬渡さん家（定員 18 名） 開設（三郷市鷹野）
 4月 はやぶさ学童保育クラブ（定員 30 名） 開設（葛飾区金町）
 4月 ファミリーケア立石：訪問介護 移転（葛飾区東立石）
 5月 ファミリーケア水元公園：訪問介護 開設（葛飾区水元）
 5月 （常務理事交代：菊地 雅彦）
- 2009年
- 1月 ファミリーケア深川：訪問介護 廃止 ※ファミリーケア大島に統合
 1月 ファミリーケアすこやか：訪問介護 休止
 2月 ファミリーケア花千寿：訪問介護 廃止 ※ファミリーケア北千住に統合
- 1 2月 ファミリーケアあおと（旧名称ファミリーケアすこやか）再開
- 2010年
- 4月 東金町小ひよどり学童保育クラブ（定員 50 名）開設（葛飾区東金町）
 5月 あおと介護保険相談室：居宅介護支援 開設（葛飾区青戸）
 5月 地域包括支援センター青戸 亀有分室 開設（葛飾区亀有）
 ※高齢者総合相談センター亀有
 6月 ※理事長交代 第4代：中山 美千代
- 1 2月 業平医療福祉会館 開設（墨田区業平）
 ※医療福祉複合施設（医科診療所・訪問看護ステーション併設）
 グループホームすこやかの家業平（定員 9 名）
 小規模多機能サービスすこやかの家業平（定員 18 名） 2 事業所開設
- 2011年
- 9月 葛飾やすらぎの郷開設 10 周年祝賀会
 葛飾やすらぎの郷開設 10 周年記念誌「時代を拓く施設づくり」発行
- 2012年
- 2月 あおと介護保険相談室：居宅介護支援 移転（葛飾区青戸）
 7月 介護相談室みずもと：居宅介護支援 開設（葛飾区水元）
- 1 1月 在宅サービスセンター葛西：通所介護 廃止 ※小規模多機能に事業転換
- 2013年
- 1月 小規模多機能サービスすこやかの家業平 廃止 ※複合型サービスに事業転換
 2月 複合型サービスすこやかの家業平（定員 24 名） 開設（墨田区業平）
 ※小規模多機能サービスから事業転換
 2月 すみれ訪問看護ステーション 開設（墨田区業平） ※健和会から譲渡
 2月 すこやかの家かねがふち 開設（墨田区墨田） ※福祉複合施設
 ケアハウスかねがふち（定員 20 名）：都市型軽費老人ホーム 開設
 デイサービスセンターかねがふち 移転
 ファミリーケアすみだ：訪問介護 移転
 2月 小規模多機能サービス葛西みなみ（定員 25 名） 開設（江戸川区南葛西）

- 4月 八潮かえで保育園（定員 85 名） 開設（八潮市大瀬）
- 2014年
 - 3月 金町学童保育クラブ 休止 ※建替えのため
 - 7月 千住大川デイサービスセンター：通所介護 廃止
 - 9月 ファミリーケア北千住：訪問介護 移転（足立区千住大川町）
- 1 2月 デイサービスセンターなの花：通所介護 廃止
- 2015年
 - 2月 金町学童保育クラブ 再開
 - 2月 はやぶさ学童保育クラブ 廃止 ※再開した金町学童保育クラブに統合
 - 2月 特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷 定員区分変更
(定員：入所 84 名、ショートステイ 12 名)
 - 3月 介護相談室やなぎしま：居宅介護支援 開設（江東区業平）
 - 3月 すこやか福祉会 5 ヵ年計画（2015 年～2019 年）策定
 - 5月 ファミリーケア北千住：訪問介護 廃止 ※ファミリーケア柳原に統合
 - 8月 高齢者総合相談センター亀有（地域包括支援センター青戸亀有分室）移転
(葛飾区亀有)
- 1 2月 株式会社ファミリーケアからの介護事業所運営移管により 7 事業所開設
 - デイサービスセンターなごみ（定員 30 名）（三郷市鷹野）
 - デイサービスセンター采女の里（定員 33 名）（三郷市采女）
 - ファミリーケアみさと：訪問介護（三郷市鷹野）
 - ファミリーケア戸ヶ崎：訪問介護（三郷市戸ヶ崎）
 - ファミリーケアみさと北：訪問介護（三郷市采女）
 - ファミリーケア松戸：訪問介護（松戸市馬橋）
 - ファミリーケア八潮：訪問介護（八潮市中央）
- 1 2月 ファミリーケア柳原：訪問介護 移転（足立区柳原）
- 2016年
 - 4月 ファミリーケア立石：訪問介護 廃止 ※翌月サテライト営業所開設
 - 4月 ファミリーケア芝：訪問介護 廃止 ※翌月サテライト営業所開設
 - 5月 ファミリーケアあおと 立石営業所 開設
 - 5月 ファミリーケアみたて 芝営業所 開設
 - 7月 ファミリーケア松戸：訪問介護 廃止
 - 9月 ファミリーケア西新井：訪問介護 廃止
- 2017年
 - 3月 子ども食堂「カフェひろば」開始（葛飾区東金町）
 - 4月 おおぜ学童保育所（定員 80 名）開設（八潮市大瀬）※八潮市から指定管理者受託
 - 8月 ファミリーケア綾瀬：訪問介護 廃止 ※翌月サテライト営業所開設
 - 9月 ファミリーケア柳原 綾瀬営業所 開設
 - 9月 苦情対応第三者委員会スタート
- 1 0月 介護事業部組織再編 サービス事業部制からエリア事業部制に再編
葛飾エリア、足墨エリア、湾岸エリア、埼玉エリアの 4 つのエリアでスタート
- 1 2月 ファミリーケア大島：訪問介護 移転（江東区大島）
- 2018年
 - 3月 介護相談室みずもと：居宅介護支援 廃止 ※あおと介護保険相談室に統合
 - 3月 東京都港区高齢者集合住宅生活援助員業務 受託終了
 - 4月 野のはな保育園（定員 80 名） 開設（足立区西加平）
 - 4月 特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷 定員区分変更
(定員：入所 88 名、ショートステイ 8 名)
 - 4月 介護職員学業保障制度開始：2 名入職（千住介護福祉専門学校入学）
 - 5月 複合型サービスすこやかの家業平 廃止 ※6 月に健和会に譲渡
 - すみれ訪問看護ステーション 廃止 ※6 月に健和会に譲渡
 - 介護相談室やなぎしま：居宅介護支援 廃止
 - 6月 すこやか福祉会 20 周年記念誌「創立 20 年の軌跡」発行
 - 7月 すこやか福祉会 20 周年記念講演・祝賀会（テクノプラザかつしか）

- すこやか福祉会20周年記念誌「子育て応援ブックレット-たからもの」発行
- 9月 複合施設TPGケアテラスよまき 開設（三郷市鷹野）
小規模多機能サービス馬渡さん家 移転
ファミリーケア戸ヶ崎：訪問介護 移転・名称変更：ファミリーケアたかの
- 2019年
- 2月 グループリビングよりみちの家 廃止 ※3月に保健医療福祉協同組合に譲渡
3月 ファミリーケアあおと立石営業所：訪問介護 廃止
※翌月、ファミリーケアあおとに統合
4月 ファミリーケアあおと：訪問介護 移転（葛飾区青戸）
4月 昨年度に引き続き介護職員学業保障制度実施
：3名入職（千住介護福祉専門学校入学）
4月 ファミリーケア新小岩：訪問介護 廃止 ※翌月、ファミリーケア船堀に統合
5月 ファミリーケア葛西：訪問介護 移転・名称変更：ファミリーケア船堀
（江戸川区東小松川）
- 2020年
- 6月 かばらデイサービスセンター：通所介護 廃止
7月 こばとの森保育園 隣地購入（葛飾区東水元）
- 2021年
- 3月 ファミリーケアみたて芝営業所：訪問介護 廃止
※翌月、ファミリーケアみたてに統合
4月 デイサービスセンターかねがふち
：通所介護から認知症対応型通所介護に事業転換
4月 グループホーム福さん家 土地・借地権・建物購入（墨田区吾妻橋）
6月 ※理事長交代 第5代：藤井 博之
9月 東金町小ひよどり学童保育クラブ 移転（葛飾区東金町）
定員変更（50名→75名）
- 11月 特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷 大規模修繕工事着工
（2022年10月完了）
- 11月 こばとの森保育園 避難口新設工事着工（2022年1月完了）
- 2022年
- 4月 こばとの森保育園 認可定員変更（91名→84名）
4月 つばさ学童保育クラブ 金町小学校内に移転（葛飾区金町）
4月 遺贈により土地・建物取得（流山市南流山・松戸市松戸）
- 2023年
- 3月 東京さくら福祉会との合併基本合意書・合併契約書締結
5月 特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷 定員区分変更
（定員：入所91名、ショートステイ5名）
- 11月 東京さくら福祉会との法人合併（存続法人：すこやか福祉会）で6事業所開設
グループホームさくらの家（定員18名）（世田谷区桜丘）
デイサービスセンターさくら草（定員28名）（世田谷区桜丘）
ヘルパーステーションさくら：訪問介護（世田谷区桜丘）
在宅支援相談室桜丘：居宅介護支援（世田谷区桜丘）
小規模多機能サービスひまわりの家（流山市三輪野山）
ヘルパーステーションきずな：訪問介護・介護タクシー
（流山市江戸川台西）
- 11月 常務理事2名体制（菊地雅彦、畑中大吾）
- 2024年
- 2月 カナリア学童保育クラブ 開設（葛飾区金町）
2月 あおと介護保険相談室：居宅介護支援（葛飾区青戸） 移転・名称変更
ケアサポートかつしか：居宅介護支援（葛飾区東立石）
※健和会四ツ木診療所居宅介護支援事業所と事業所合同



腰痛ゼロを目指して。

ノーリフティング宣言。

すこやか福祉会

